

志水太郎先生から ご参加される皆様へのメッセージ

本講演では、診断におけるAIの役割を単なる支援ツールとしてではなく、臨床医の思考を点検し深めるための相互作用の相手として捉えます。AIは情報処理や候補提示に強みを持ちますが、解像度の高い情報収集の力、判断と責任は常に臨床医にありますし、有機的に情報を切り分ける診断推論のアート部分も同様に臨床医の能力です。重要なのはAIの出力を批判的に吟味し、自らの考えと照合し、必要に応じて較正する過程です。一方、思考が可視化されたAIは、診断の正解を示す存在というより、私たちの前提や思考の癖を映し出す鏡になり得ます。AIとの対話から生じる違和感を手がかりに、診断をより意識的で洗練された営みへと発展させる視点を共有したいと考えています。